競 技 注 意 事 項

1　競技規則について

(1) 本大会は、2026年度日本陸上競技連盟規則及び本大会申し合わせ事項によって行う。

(2) 引率責任者は、団体の場合は校長の認める当該校の職員とする。個人の場合は、校長の認める学校の職員とする。また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」（地方公務員法第22条の2に示された者）も可とする。

(3) 監督、コーチ等は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険 （スポーツ安全保険等）に必ず加入することを条件とする。

2　競技者の招集について

(1) 競技者招集所は、正面玄関外側の100mスタート方向に設置する。

(2) 招集時間

競 技 種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技 予選	競技開始６０分前	競技開始２０分前
トラック競技 準決・決勝	競技開始３０分前	競技開始１５分前
リレー競技 予選・決勝	競技開始３０分前	競技開始１５分前
フ ィ ー ル ド 競 技	競技開始９０分前	競技開始６０分前

(3) 招集の手順

① 競技者または代理人が招集所の競技者係から確認（招集）を受け、各競技の場所で最終点呼を受ける。

② 代理人による最終点呼は認めない。ただし、２種目を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめその旨を最初の種目の招集時に競技者係に申し出る。

③ 混成競技の招集は、両日共に第１種目は競技者または代理人が招集所の競技者係から確認（招集）を受ける。第２種目からは、現地で混成係に招集（トラック競技20分前、フィールド競技40分前）を受ける。棄権するときも必ず現地で申し出る。

④ リレー競技に出場する選手（４名全員）は、招集時刻内に招集所の競技者係から確認（招集）を受ける。その時間に他種目出場選手がいる場合は、その旨を招集時に競技者係に申し出る。

⑤ 棄権する競技者は棄権届用紙（招集所に準備）に記入し招集開始時刻までに招集所に提出する。

⑥ 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとして処理する。

⑦ リレーのオーダーについては、メンバー及びオーダーの変更の有無に関わらず、各ラウンド毎に招集完了時刻の１時間前までにオーダー用紙（招集所に準備）を招集所競技者係に提出する。また、招集は規定通りに受ける。オーダー用紙の提出後は変更できない。怪我等の特別な理由がある時は本部へ申し出る。大会のドクターかトレーナーの診察を受け、変更を認めることがある。招集時間完了後は変更できない。

⑧ リレー種目で大会ドクターかトレーナーからの診断を受け変更を認められ不出場になった選手は、翌日に大会へ参加する場合、再度、大会ドクターかトレーナーの診断を受け出場する事ができる。

⑨ リレーのエントリー以外からリレー出場の場合は、オーダー用紙の氏名右にエントリーした他種目名を記入する。

3　アスリートビブスについて

(1) 出場者はアスリートビブスを胸部と背部につけて出場しなければならない。

(2) 跳躍競技の出場者は、胸部または背部のいずれかを除いてもよい。

(3) トラック競技者は、招集所で競技者係から渡された腰ナンバーカードを右腰やや後方につける。

4　競技について

(1) 当該競技に参加する競技者以外は、競技場内に立ち入らない。ただし、長距離種目については、1人の付き添いをつけて選手の体調管理に努める。

(2) スパイクシューズのピンの長さは、トラック種目及び走幅跳・三段跳・棒高跳は９㎜以下、走高跳とやり投は１２㎜以下とし、全天候型走路専用ピンに限る。

(3) 男子共通3000mSCに出場する選手は、 スパイクシューズを履いて出場しなければならない。スパイクシューズを履いていない選手は、安全面の観点から出場させない。

(4) トラック競技において、欠場者のレーンは、そのまま空けておく。

(5) トラック競技において、セパレートレーンを使用する種目については、フィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走る。

(6) 長距離・競歩種目については、気象の状況により給水を設けることがある。

(7) 4×400ｍリレーの第３・４走者は、競技役員の指示に従い前走者が200ｍスタート地点を通過した順位で、内側から並び待機する。その後、順位に変動があっても、位置を変えてはならない。なお、バトンを受け渡した後の走者は、後続の他チーム走者の走路を妨害しないように留意する。

(8) リレーに出場のチームは、原則同一のユニフォームを着用する。ただし服装に関しては、色やデザインが同様で同一のチームと判別可能であれば、形状が異なる衣類を着用してもよい。

(9) 次のトラック競技は、スタート後下記の時間で競技を打ち切る。ただし、この時間に大水濠を通過したものは、そのままフィニッシュラインへ向かってもよい。

男子　5000m：18分30秒　3000mSC：12分　5000ｍW：35分　女子　3000m：13分　5000ｍW：40分

※ただし、男女競歩は県大会に出場できる人数まではゴールさせる予定。

(10) 走高跳のバーの上げ方は、次のとおりとする。ただし、気象条件等により変更することもある。

男子走高跳　1.60 ～（５㎝刻み）～ 1.85　1.88 （以降３㎝刻み）

女子走高跳　1.30 ～（５㎝刻み）～ 1.50　1.53 （以降３㎝刻み）

男子八種走高跳　1.45 ～（５㎝刻み）～ 1.70　1.73 （以降３㎝刻み）

女子七種走高跳　1.20 ～（５㎝刻み）～ 1.45　1.48 （以降３㎝刻み）

(11) 次のフィールド競技は、下記の記録以下は計測しない。ただし、気象条件等により変更することがある。

男子砲丸投…8m　男子やり投…35m

(12) 投てき競技に出場する競技者は、事故防止に充分に注意する。

(13) 通信機器（携帯電話・トランシーバー等）、音響端末機器等の競技場内への持ち込みは禁止する。競技場内に持ち込む荷物の中にも入れないこと。

5　競技の抽選及び番組編成について

(1) トラック種目における決勝へのプラス進出者については、当該競技者の最下位に同記録が複数出た場合、写真判定により0.001秒単位の時間を判定して決定する。それでも決まらない場合は、レーンに余裕があれば次のラウンドに進める。レーンに余裕がない場合は、「同着」とし抽選する。

(2) 抽選は、本部の番組編成席で行う。抽選のアナウンス後５分経過しても該当競技者が番組編成席に来ない場合は、本部が代理で行う。

6　競技用具について

(1) この競技会で使用する用器具は、主催者で用意した競技場備え付けのものを使用しなければならない。

(2) 棒高跳用ポールは個人持参の物の使用を認める。やりは、個人持参の物を主催者で検査のうえ使用を認める。ただし、共通使用とする。

(3) 検査は、第４ゲート用器具倉庫にて時間（通告する）を決めて行う。

7　練習について

(1) フィールド種目の練習は、招集後に本競技場内で行う。
(2) 投てき練習場での練習は、ハンマー投のみ試合日の９時まで認める。投てき練習場へは、関係者以外は立ち入らない。ハンマー投の本競技場での練習は、公式練習２回のみ行う。
(3) 競技場内の練習については、事故防止のためすべて競技役員の指示に従う。
(4) 補助競技場でメディシンボールなどの投てき物を使った練習は禁止する。

8　表彰について

(1) 表彰は行わない。第３位までの入賞者に賞状を渡す。各校は本部に受け取りに来る。
(2) 学校対校は総合の部・トラックの部・フィールドの部のそれぞれ第３位までに賞状を渡す。各校は本部に受け取りに来る。
(3) 入賞者の得点は、１位８点、２位７点、以下６・５・４・３・２・１点とする。

9　県大会について

(1) 本大会第１１位までは、県大会（９/１９～２１ 博多の森陸上競技場）の出場資格を得る。ただし、男子棒高跳と男女走高跳は第１１位までの１１名とする。女子棒高跳は第７位までの７名、男女混成競技は第７位までとする。
(2) 県大会出場資格を得た学校は、大会本部で必要書類を受け取り所定の手続きを行う。「仮申し込み書」は本大会終了後速やかに（大会中でも可）大会本部へ提出する。なお、正式申込書等については県高体連のホームページよりダウンロードし、９月９日（水）必着で専門委員長（筑紫高校　笠原）宛送付する。
(3) 男女混成競技の県大会出場者は、「仮申し込み書」に走高跳の最初の高さの希望を記入する。
(4) 県大会参加負担金は、出場者１名につき５００円。後日、高体連から当該校へ請求される。

10　その他

(1) 記録は通告をする。
(2) スタンドにはテントを設置しない。
(3) 各校の控え所については、譲り合って使用し、必要以上の広さを確保専有しない。
(4) 各校の控え所の目印等で、紙のガムテープを床に貼らない。
(5) 雨天練習場を各校の控え所としての使用は禁止する。
(6) 各校の応援用横断幕・のぼりは、サイド・バックスタンドの中段以上とし、スタンドの一番下には張らない。のぼりはメインスタンド最上段に掲示してもよい。
(7) フィールド競技を行っている際のその付近での応援（拍手）は禁止する。
(8) 更衣室は更衣のみに使用し、私物は一切置かないこと。競技終了後は速やかに出る。
(9) ゴミについては、各学校（各個人）で責任を持って持ち帰る。
(10) ビデオ等を見せる場合は、安全且つ競技運営に支障のない場所で各チームが準備したひもやかご等の道具、または主催者側が準備した道具を使って録画機器を受け渡しすることができる。ただし、安全には十分配慮する。また、機器の破損等が生じた場合、主催者は一切の責任を負わない。なお、機器の投げ渡しや身を乗り出しての危険な状態での受け渡しは認めない。
(11) 混成控室はトレーニング室Bに設ける。